

UNIVERSAL DESIGN
CASE COLLECTION
of NORTH



北	の				
ユニバーサル	デザイン	事	例	集	
U	D				



はじめに

高齢社会の進展やニーズの多様化などの中、誰もが暮らしやすく豊かな社会を実現するために、ユニバーサルデザイン(以下、UDといいます。)による製品やサービスなどを提供する動きが全国で広がっています。UDとは、全ての人が、年齢や障がいの有無等を意識することなく、いつでも快適な生活を送ることができるデザインをいいます。

高齢化率が高く、積雪寒冷により屋外活動が快適でない北海道において、このUDの視点はとても重要です。一方、北海道には、魅力的なUD市場がまだ多数潜在している可能性があります。

この冊子は、こうした観点から、北海道の冬の寒さや雪の中でも、安心して気軽に外出することにつながる製品やサービスを提供している企業を中心に、13社のUD取組事例を取りまとめたものです。また、UDの分野でご活躍されている4人の方からそれぞれ示唆に富む寄稿をいただきました。さらに、使いやすく、見やすい冊子になるように、デザイン、文字の大きさ、フォント、色づかいなどについても工夫をしています。(このようなデザインをメディア・ユニバーサルデザインといいます。)

この冊子が、企業の皆様にとって、UDの理解増進の一助になるとともに、UDを活かした事業活動の参考になることを期待しています。

2009年(平成21年)3月
経済産業省 北海道経済産業局
産業部 サービス産業室

1	だれにも暮らしやすい社会を目指して～ 《寄稿》北のユニバーサルデザイン協議会 理事長 児玉芳明	
	「車いす紅蓮隊」(当事者)の立場から考えるUDの必要性 《寄稿》車いす紅蓮隊 五十嵐真幸	2
3	UD(Universal Design)先進国には脱帽 《寄稿》東海大学芸術工学部 教授 小河幸次	
	ユニバーサルデザインへの期待 《寄稿》北海道立工業試験場 製品技術部 人間情報応用科長 吉成 哲	4
5	株式会社 アルファ美輝	
	有限会社 イフ	7
9	有限会社 風曜日	
	社会福祉法人 クピド・フェア	11
13	工房旬 合同会社	
	有限会社 COM泉屋	15
17	株式会社 白石ゴム製作所	
	特定非営利活動法人 旅とぴあ北海道	19
21	株式会社 特殊衣料	
	特定非営利活動法人 日本理美容福祉協会 札幌センター	23
25	株式会社 ライフパス	
	株式会社 ワールドワーク	27
29	北海道文化放送 株式会社(UHB)	
	ユニバーサルデザイン(UD)とは	

多様な価値観を理解し、違いを包み込む社会がいま必要と
なっています。戦後、日本は高度経済成長の中で、健康な成人
を軸に社会基盤を整備してきました。高齢者、障がい者、女性、
外国人などの視点は置き去りにされてきたと言ってもいいで
しょう。こうした人たちは今も、さまざまな障壁(バリア)によっ
て社会参加を阻まれているのが実態です。

しかし人口の急激な高齢化によってわが国の社会は大きく
変化しています。北海道の高齢化率は2005年の21.5%から
2050年には35%以上になると予測されています。増えるお
年寄りや、障がい者が社会生活を送る上で不便のないまちづく
り、建物づくり、安全で使い易いものづくりやサービスが緊急
の課題となってきました。さらに国際化の進展で外国人居住
者、旅行者も増えてきています。

成人・健常者をベースにした社会基盤に代わって高齢者や
障がい者、外国人を包み込むシステムの構築が時代の要請で
す。年齢や性別、身体能力、国籍や文化の多様性を包容し、そ
の知恵と能力を生かした思いやりのある、心豊かな街づくり、
ものづくり、いわゆるユニバーサルデザイン(UD)が必要な時
代の到来と言えます。そうした社会は成熟した、だれにとつて
も優しい社会と言えるでしょう。

「北のユニバーサルデザイン協議会」(NUDA)はこうした
考え方をもとに昨年9月に発足し、これまでに札幌円山動物園
やさっぽろ雪まつりの現場をUDの視点から検証する作業や
勉強会を積み重ねてきました。北の大地に軸足を置き、暮らし
やすい北国の生活環境、ものづくりを目指して歩みを進めてい
ます。北海道の活性化や経済の発展にも当然つながり、その
成果は全国へ、世界へ発信できることと確信しています。



北のユニバーサル
デザイン協議会
理事長
児玉芳明

障がい者、高齢者の方でも旅行しやすく、「誰にでも優しい
街・旭川」を目指して、活動を始め、4年目になりました。旭川
の魅力を再発見しよう！旭川をもっと知ろう！ということで、
車いすでも入れる飲食店、観光施設などをタウンウォッチング
してきました。この活動を始める前までは、バリア・バリアフ
リーという言葉は知っていましたが、UDという言葉の詳しい
意味は知りませんでした。体が不自由な人が使いやすいので
あれば、誰もが使いやすい。と解釈しています。自分は旭川で
22年間生活してきましたが、免許を取るまでは、一人で行動す
ることはほとんどありませんでした。ドアを1つあけるにして
も大変だと感じていますし、1段の段差でも不便を感じます。
デパートでよく目にしますが、2つドアがあり、1つは手動。1つ
は自動。外からの暖気や冷気を防ぐという意味があるかもしれ
ませんが、そのドアが重たい。一人では本当に大変な部分で
す。優しい方であれば、ドアを開けてくれたり、障がいを持って
いても元気な人であれば「開けてください」とお願いすること
も容易ですが、もし誰も近くにいなかった場合、入ることがとて
も困難になります。もし2つとも自動ドアであるか、手動の扉
が軽い、開けやすいとなると、車いすの方はもちろん出入りが
容易です。買い物で手荷物いっぱいの人でも、ベビーカーを押
しているお母さんでも簡単に出入りすることができると思いま
す。車いすの人の気持ちは、一人で外出しても人の手を借りず、
逆に自分が手を貸してあげたい。という気持ちの人も多いで
す。UD、ハード面・ソフト面のバリアフリーが多くなれば、た
くさんの人が外出しやすく利用しやすくなる「誰にでも優しく、
住みよい街」になっていくと考えています。



車いす紅蓮隊

五十嵐真幸



東海大学
芸術工学部
教授
小河幸次

私はUD授業のガイダンスでは、英語が理解できない日本人が外国旅行をする時は、言語障害と同じであると話している。自分の意思を伝えることができない、相手の言葉も理解できないからだと説明している。観光地でも、まちのなかでも北欧の人達は困った人を見つけると気軽に話かけて、色々な手段を使って話しかけ解決してくれたと体験談を話している。東海大学旭川校舎にも数人の北欧留学生がいるがまったく心配はいらない。

2008年のノーベル賞授賞式を見て、さすがUD先進国に感動を覚えた。英語嫌いな益川敏英教授に対して、司会者の慣れない日本語での対応には脱帽した。英語嫌いを理由にこれまで海外での会議に一切出席せず、ノーベル賞授賞式が初めての海外渡航となった益川教授に配慮したおもてなしである。

後日学食で食事をしていると、学生から「ノーベル賞授賞式はUD対応でしたね」と言われ私も同感し、UDの基本は相手を思いやる気持ちであり価値観の違いを再認識した。

日本国内では、国会で漢字の読み違いを指摘されている風景を何度も見ているが少し不安を感じる。「私は時々読み違いをします」と言えば解決する問題である。誰にでも理解できる日本語を使うことが重要なのに、教養と知性を見せるために使用する日本語には共感はできない。

北海道内の生活環境等のUDな部分はかなり充実しているが、一番大切な心のUDが不足していると実感している。アイスバーンで困っている高齢者に「良い靴がありますよ」と話すより、「このコースが安全ですよ一緒に歩きましょう」と一言で解決する心が大切だと考える。

多様な人間特性をもった生活者で構成されている高齢社会において、自立して生きていける環境づくりを進めるため、サービスや製品、建物などの生活全般について、使いやすい環境を整えることが必要です。また、北海道には積雪寒冷という地域特性もあり、これらを克服し、上手につきあうことは、地域全体として取り組まなければならない共有の課題でもあります。

そこで、ユニバーサルデザインの重要性が高まってきています。ユニバーサルデザインというと、なにか特別なもののように感じますが、利用者がおかれるさまざまな状況を想定して、利用に当たってのハードルを低くするように考えると、自然と実践できると思います。そういった意味では、ユニバーサルデザインという考えはデザインの大きな概念に包含されているとも言えます。

具体的には、人間特性を理解し、利用状況を把握した上で、サービスや製品の要求事項を整理し、ターゲットユーザーによる検証を繰り返す人間中心の開発プロセスです。その際、モデルとなるような先進的な取組事例からは多くの示唆が得られると考えます。また、ライターや洗浄便座のように、最初は特別なものとして作られていても、誰もが使いやすいもの为目标に改良が図られ、共用品となってさらに普及が進む場合もあり、作り手側と使い手側の双方にメリットが生まれます。心地よい顧客サービスの提供や使い勝手の良い製品の開発などに取り組む企業や団体が増え、ユニバーサルデザインという言葉が意識されなくなるような時代が来ることが期待されます。



北海道立工業試験場
製品技術部
人間情報応用科長
吉成哲

《事業内容》ドイツ健康靴フル・セミオーダー製造販売、
オーダー中敷製作、フスフレーゲ

所在地：札幌市中央区南1条西7丁目12番6号
パークアベニュービル1F

T E L：011-272-7111

F A X：011-272-4001

設立：1988年（昭和63年）11月

資本金：1,000万円

代表者：代表取締役 木田 倫子

従業員数：23名

支店：帯広店、大丸札幌店

《お問い合わせ先》

担当者：代表取締役 木田 倫子（きだ みちこ）

T E L：011-272-7111

e - m a i l：info@alphamiki.co.jp



UDサービス取組のきっかけ

東京での商社勤務時代に、ドイツの「ビルケンシュトゥック」（健康を追求する靴のブランド）を取り扱うことになり、全国で16人、北海道では唯一のマスター・オブ・シューフィッティング（「足と靴の健康協議会」認定）資格を取得。足元（靴）の大切さを実感し、それを多くの人々に広めるために、ふるさと札幌にて創業した。

UDサービスの提供内容

「健康の基本は姿勢良く颯爽と歩くこと」をコンセプトに、快適な歩行生活を実現させるため、足からのトータルケアによるサービスを提供。特に、病気や事故などで歩くことを長い間あきらめていた人々の歩行復帰にも貢献している。

- 足の状態や歩き方の確認、病気による足の悩みなどのカウンセリングを行い、最適な靴を販売
- ドイツ式フットケア（フスフレーゲ）によるタコ、ウオノメ、巻き爪等のケア
- ドイツ整形外科靴シューマイスター（ドイツ整形外科マイスター）による足と靴のオーダー相談会の開催
- ウォーキングやノルディックウォーキング教室の開催
- 子供の足と靴の相談受付 ほか

○平成11年度「北の起業家表彰」奨励賞
【札幌商工会議所】

「お話ししましょう車屋の「イフ」。
些細な「イフ」の結構です、
あなたの「もし」を現実にも...

《事業内容》福祉車両製作、メンテナンス、福祉車両用品販売 ほか

所在地：帯広市西23条北2丁目11番14号
TEL：0155-38-8380
FAX：0155-37-3009
設立：2003年（平成15年）10月
資本金：300万円
代表者：代表取締役 内藤 憲孝
従業員数：3名
《お問い合わせ先》
担当者：代表取締役 内藤 憲孝（ないとうのりたか）
TEL：0155-38-8380
e-mail：naito@e-if.jp



UDサービス取組のきっかけ

同居している義父母が相次ぎ病気で障がいを持つようになり、福祉の勉強を始めたところ「福祉車両とは、障がいを持つ一部の人のためだけじゃなく、誰にでもやさしい車づくりである」ということにたどりつき、「自分たちの技術を活かせること、そしてまだまだ無限の可能性を持つ分野であること」に気づき創業した。

UDサービスの提供内容

全国的にも数の少ない福祉車両専門店として、画一的で障がい者、高齢者のための車だけではなく、メーカーや車種、新車、中古車を問わず、誰にでもやさしい便利な車を製作している。

- 一人ひとりに合わせた車作りを、車に合う部品がなければ一から手作りで対応
- 着脱式の手動自動車運転装置「オートモビリティ901」の販売
- 福祉と車両に関するトータルアドバイスの実施 ほか
- 「職業奉仕賞 優れた職業人(2005~2006年度)」
【国際ロータリークラブ第2500地区】
- 「バリアフリーリーダー(平成20年度)」
【国土交通省 北海道運輸局 帯広運輸支局】

どなたにでも安心してお泊まりいただける
宿の運営を通して、地域社会に貢献へ！

《事業内容》 宿泊業「ピュア・フィールド風曜日」

所在地：川上郡弟子屈町弟子屈原野419-64

T E L：015-482-7111

F A X：015-482-7777

設立：1999年（平成11年）4月

資本金：300万円

代表者：代表取締役 三木 亨

従業員数：2名

《お問い合わせ先》

担当者：代表取締役 三木 亨（みき とおる）

T E L：015-482-7111

e-mail：kaze99@aurens.or.jp



UDサービス取組のきっかけ

福祉学の専門家である妻から、身体に障がいを持った人が安心して宿泊できる施設が国内には少ないということを知られ、それを機に東京の会社を早期退職し、妻の兄が経営しているユースホステルの隣接地に、国内でも珍しいユニバーサルデザインプチホテルを建設した。

UDサービスの提供内容

北海道を訪れたより多くの人々に快適な時間を過ごしてもらうために、ハード・ソフト両面から、ユニバーサルデザインに配慮した施設づくりに取り組んでいる。浴槽やトイレなどの設計は、車椅子利用の女性2級建築士（釧路出身）が担当している。

- 各部屋のほかに、それぞれの障がいの部位に対応した形態の異なる設計のトイレを3箇所設置
 - 貸切の家族風呂は、車椅子に乗ったままでも入浴が可能
 - 食事は、地元の食材を使用し、ユーザーの個別要望に沿った手作りの家庭料理を提供
 - 障がいを持っていても安心して楽しめるアウトドア体験ツアーの企画やリフト付き観光バス等による観光ガイドの実施 ほか
- 平成20年度「バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰（第7回）」内閣府特命担当大臣表彰奨励賞【内閣府】
- 2008年第6回「企業フィランソロピー大賞」特別賞〈社会共生賞〉【（社）日本フィランソロピー協会】 ほか

UDサービス取組のきっかけ

施設内で車椅子を利用している人々から、「注文した車椅子が自分の思っていたとおりに仕上がっていない」との声を多く聞き、それをきっかけに「自分たちで作ってしまおう」と、平成8年、車椅子などの福祉機器の製造・販売を開始した。

UDサービスの提供内容

障がいを持つ人々の自立と社会参加を確立するために、身体障がい者・高齢者向け施設運営の経験を活かし、道内では珍しいゼロから車椅子を製造するメーカーであり、また、一人ひとりの身体状況や生活環境に合わせた福祉機器の製造販売も行っている。

- 車椅子利用の従業員が製作する使いやすさが追求された「オリジナル車椅子」の製造販売
- 雪道や悪路の走行が可能な「四輪駆動電動車椅子」の製造販売
- 手元のレバー操作で簡単にアイスピックが出てくる「クピド・アイスステッキ(雪国用杖)」の製造販売 ほか

- 平成10年「北の生活産業デザインコンペ(工業デザイン部門)」奨励賞【北海道】
- 平成13年度「日本機械学会北海道支部研究技術賞」【日本機械学会】

《事業内容》福祉機器製造販売 ほか

所在地：岩見沢市志文町301番地
TEL：0126-23-1111
FAX：0126-22-5638
設立：1966年(昭和41年)10月
代表者：理事長 吉田 栄次
従業員数：395名
《お問い合わせ先》
担当者：事業課長 猿田 耕也(さるた こうや)
TEL：0126-23-1111
e-mail：メールフォーム
<http://www.cupid.or.jp/mailform/index.html>



障がいを持っていても社会進出できるような、一人ひとりに合った、かゆいところの手が届く道具を提供します。

障がい者レスキューセンター工房旬は、
あなたのもとへ夢グッズをお届けします。

《事業内容》介護用品の販売・企画・製作

所在地：札幌市厚別区上野幌1条4丁目8番17号
TEL：011-890-0005
FAX：011-890-0007
設立：2003年（平成15年）7月
資本金：50万円
代表者：漆崎 能子
従業員数：3名
《お問い合わせ先》
担当者：代表者 漆崎 能子（うるしざき ようこ）
TEL：011-890-0005
e-mail：info@koubou-syun.com



UDサービス取組のきっかけ

「市販の物では合わない子どものために、温かく履きやすい靴や手袋が欲しい。こんなものがあたらいいのに」という親たちの声を形にするために製作を開始した。

UDサービスの提供内容

歩行が困難な人の冬の外出や子どもたちに冬の外遊びを存分に楽しんでもらうための製品を開発し、誰もが外出しやすい環境づくりに貢献している。製作は授産施設に委託し、障がいを持つ人々の就業支援も行っている。

- 足にぴったりフィットし、軽くてデザイン性にも優れた「温かいブーツ」の製造販売
- 手首にしっかりフィットし、雪や風の入りづらい「温かい手袋」の製造販売
- Mont-Bell(アウトドアブランド)と提携した、車いす対応雨具「パラカグール」や車いす対応ディバッグ「たいぞうくんバッグ」の販売 ほか

- 2004年度「第5回バリアフリー・デザイン賞」
優秀賞・北海道新聞社賞
【バリアフリー・デザイン協議会、北海道新聞】
- 「札幌スタイル」認証【札幌市】

オンリーワンの福祉用具の研究開発で、
今よりワンランク上の生活を実現させます。

《事業内容》福祉用具の研究開発・設計・製造・販売・修理

所在地：旭川市春光台3条3丁目7番14号
TEL：0166-54-6771
FAX：0166-54-6771
設立：2004年(平成16年)2月
資本金：300万円
代表者：取締役社長 泉谷 昌洋
従業員数：3名
《お問い合わせ先》
担当者：取締役社長 泉谷 昌洋 (いずみやまさひろ)
TEL：0166-54-6771
e-mail：comizumiya@ybb.ne.jp



UDサービス取組のきっかけ

中学生の頃から兄のボランティア活動に同行し、福祉について自然と関心を持つ。学生時代に車椅子などの福祉用具を製造している企業でアルバイトを始め、そのまま就職。6年間の勤務後、自分の思いをかたちにするために独立創業した。

UDサービスの提供内容

障がい者が社会進出するために役立つ福祉用具の研究開発に力を注ぎ、その人に合わせたオンリーワンの製品を提供している。

- 高齢者の姿勢保持用オーダーメイドクッションの製造販売
- 段差や砂利道、凸凹道、雪道などの悪路を進むことが可能な車椅子補助輪「快適AQURO(かいてきアクロ)」の製造販売
- デザイン性に優れ、身体の成長に対応し、軽量かつ低価格の「オーダーメイド車いす」の製造販売
- 犬用歩行器&車いす「ワンダフル」の製造販売
- 障がい者の旭川旅行へのアドバイスと車椅子(快適AQURO付き)のレンタル事業 ほか

○平成20年度
「北海道福祉のまちづくりコンクール(福祉用具部門)」
受賞【北海道】

環境・安全・リサイクルを重視した、自然に優しい企業を目指します。

《事業内容》 ゴム製品・防滑マット各種の製造・加工・工事 ほか

所在地：札幌市白石区北郷4条4丁目20番17号

T E L : 011-872-3771

F A X : 011-875-6343

設立：1977年(昭和52年)1月

資本金：4,000万円

代表者：代表取締役 千葉 武雄

従業員数：22名

《お問い合わせ先》

担当者：代表取締役 千葉 武雄 (ちば たけお)

T E L : 011-872-3771

e - m a i l : info@rubber.co.jp



UDサービス取組のきっかけ

大手タイヤメーカーの販売会社に勤務していた際、営業のかたわらに自ら行っていた研究開発を本業とするために独立。様々な人々のニーズを受け止めた「北海道ならではの」少量多品種のよりよい製品づくりの一つとして、安全・環境保護商品の開発に取り組み始めた。

UDサービスの提供内容

誰もが北海道で快適に過ごせるように、安心・安全で、省資源・省エネルギー・資源循環・エコライフなど環境面にも配慮した製品を産学官共同研究などで開発し、提供している。

- ツルツル階段などの着氷の危険を解消できる「着氷防止エアマット」の製造販売
 - 古タイヤリサイクルゴムチップを使用し、踏むだけで雪氷が割れる「ノンスリップエコマット」の製造販売
 - 子どもたちの安全と衛生面に配慮した「公園砂場安全ゴム枠」の製造販売 ほか
- 平成13年度「北海道新技術・新製品開発奨励賞」【北海道】
 - 平成20年度「北海道福祉のまちづくりコンクール(福祉用具部門)」受賞【北海道】

UDサービス取組のきっかけ

闘病生活中に訪れた旅先で、貧しいながらも明るくたくましく生きるスラムの子どもたちとの出会いにより、生きる勇気をもたらした体験から、「ほんの少しの介助があれば旅が実現できる」と実感。旅先でのサポーターの必要性に思いをさせ、高齢者・障がい者の旅行支援活動を開始。当初は、ボランティアで行っていたが、2年後にNPO法人を設立し、事業化。

UDサービスの提供内容

障がいの有無や年齢・性別・国籍などの違いにとらわれず、「行けるところから、行きたいところへ」を実践するために、ユーザー個々のニーズにきめ細かく対応した会員制のツアーなどを提供している。

- 介助が必要な人に有償ボランティアが同行する国内外へのグループ旅行の企画実施
- ちょっとしたお出かけに同行する「ぴあ(仲間)サポート」の実施
- 函館、小樽など道内各地で「トラベルサポーター(たびっとさん)養成講座」を行い、修了生による現地受皿づくりを支援 ほか

- 平成17年度
「北海道福祉のまちづくりコンクール(ソフト部門)」
奨励賞【北海道】

《事業内容》 高齢者・障がい者の旅行支援、介護保険・自立支援指定事業所

所在地：旭川市宮下通23丁目6番157号

T E L : 0166-32-3910

F A X : 0166-32-2217

設立：2001年(平成13年)3月

代表者：代表理事 下間 啓子

従業員数：25名

《お問い合わせ先》

担当者：代表理事 下間 啓子 (しもまけいこ)

T E L : 0166-32-3910

e - m a i l : info@tabitopeer.org

「旅は生きるエネルギー」をキーワードに、「誰でも、自由に、どこへでも」外出可能なサポートシステムを構築します。



「介護から快護へ」
看護（介護）する側、される側、関連施設にとって安心、かつ喜ばれる用品や
最高のサービスを自信をもって提供します。

《事業内容》医療福祉用具・縫製品製造・販売、病院・施設向けリネンサプライ業 ほか

所在地：札幌市西区発寒14条14丁目2番40号

T E L：011-663-0761

F A X：011-663-0955

設立：1981年（昭和56年）10月

資本金：4,000万円

代表者：代表取締役社長 池田 啓子

従業員数：140名

《お問い合わせ先》

担当者：取締役統括部長 藤本 欣也（ふじもと きんや）

T E L：011-663-0761

e-mail：info@tomoni.co.jp



UDサービス取組のきっかけ

医療施設を得意先としたリネンサプライ業を主業に創業し、「こんなことはできないか」「こういうものはないか」という現場の声に応える形で、様々な角度から医療・福祉・介護分野に関わる業務にも取り組み始めた。

UDサービスの提供内容

日常生活を送るなかで誰にでも起こりうる転倒から頭部を守るために、ヘッドギアにユニバーサルデザインの視点を取り入れた保護帽などを産学官共同研究で開発し、提供している。

- 機能性と高いファッション性を両立させた保護帽「abonet(アボネット)」の製造販売
- 愛用の帽子に簡単に装着できる保護インナー「EVA」の製造販売
- 体験型ショールーム「はっさむ快護ひろば」を開設し、地域交流の場も提供 ほか

○2003年度「グッドデザイン賞」

【(財)日本産業デザイン振興会】

○平成20年度

「北海道福祉のまちづくりコンクール(福祉用具部門)」
受賞【北海道】 ほか

いつでもどこでもあなたを自分らしく個性的に美しく変身させます

《事業内容》 高齢者・障がい者を対象とした 訪問理美容サービス

所在地：札幌市北区屯田6条5丁目1番6号

T E L：011-775-7060

F A X：011-775-7060

設立：2004年（平成16年）2月

資本金：1,000万円

代表者：代表 村井 一則

従業員数：17名

《お問い合わせ先》

担当者：代表 村井 一則（むらい かずのり）

T E L：011-775-7060

e-mail：nporibi@r9.dion.ne.jp



UDサービス取組のきっかけ

美容院を経営していたが、常連客が高齢化してきたことから、訪問サービスも開始した。その後、常連客の高齢化が更に進んだため、店舗は閉鎖し、訪問理美容サービスに特化した事業を開始した。

UDサービスの提供内容

自ら理美容室に出向くことのできない人のために、高齢者、身体障がい者に対する知識や配慮と経験を持ち合わせた福祉理美容士（当協会認定資格）が、くし、はさみなどの出張理美容道具一式を持参して、福祉施設や病院、個人宅等を訪問。

- カット、パーマ、セット、メイクなどの訪問理美容サービスの提供（夏季は、移動理美容車「ちょきちょき号」によるサービスも実施）
- 理・美容師向けの福祉理美容士養成講座を実施（ほか）

- 平成17年度
「北海道福祉のまちづくりコンクール（ソフト部門）」
奨励賞【北海道】

ユニバーサルデザインの考えに基づき、
今まで十分に旅を楽しむことができなかったゲストの方々の夢（＝旅）を
コーディネートし、夢の実現をお手伝いいたします。

《事業内容》リフト付観光バス・観光福祉タクシーを
含む一般旅客自動車運送事業

所在地：札幌市北区篠路1条8丁目6番30号

T E L : 011-772-4715

F A X : 011-771-1409

設立：1999年（平成11年）2月

資本金：1,000万円

代表者：代表取締役 田中 孝幸

従業員数：15名

《お問い合わせ先》

担当者：旅客事業部長 畑 廣一（はた こういち）

T E L : 011-772-4715

e - m a i l : lifepath@ssds.co.jp



UDサービス取組のきっかけ

永年、自動車学校を経営しているなかで、より地域に貢献でき、高齢者や身体の不自由な人が共存できる社会への架け橋として「障がいがある人にもバス旅行を楽しんでもらいたい」という思いから別会社を設立した。

UDサービスの提供内容

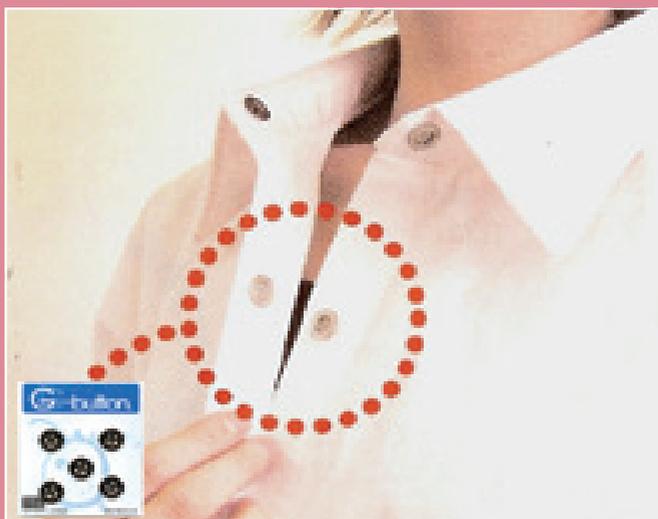
身体の不自由な人や高齢者の人を含めた多くのお客様に快適な旅行をしてもらうために、車内レイアウトを自由自在に変更できる全国でも珍しいリフト付観光バスとリフト付福祉タクシーの運送サービスなどを提供している。

- 大手旅行代理店などが企画する北海道へのユニバーサルツアーでの運送サービス
- 学校などへの送迎サービス
- 北海道内のユニバーサル情報発信ガイドブック「ユニバーサルツーリズムガイド」の発行 ほか
- 2002年度「第3回バリアフリー・デザイン賞」奨励賞
【バリアフリー・デザイン協議会、北海道新聞】
- 平成20年度
「北海道福祉のまちづくりコンクール(活動部門)」受賞
【北海道】

衣を通し、快適・豊かな生活への創造を「提案」します。

《事業内容》ユニバーサルデザイン衣料・ユニフォーム 開発、製造販売

所在地：帯広市西22条南4丁目17番6号
TEL：0155-35-5463
FAX：0155-35-5283
設立：1995年（平成7年）9月
資本金：2,250万円
代表者：代表取締役 川道 昌樹
従業員数：3名
《お問い合わせ先》
担当者：代表取締役 川道 昌樹（かわみちまさき）
TEL：0155-35-5463
e-mail：worldw@cocoa.ocn.ne.jp



UDサービス取組のきっかけ

業種、職業にあった作業服の製造を主業として創業。身体に障がいを持つ友人のための服を製作したことをきっかけに、高齢者、障がい者用の服などの製造にも取り組み始めた。

UDサービスの提供内容

両手でしか留められなかったボタンを障がいのある人でも簡単に片手で留め・外しができるように、産官共同研究でマグネットボタンを開発し、販売している。

- 簡単に縫いつけられる軽くて丈夫なマグネットボタン「G-button」の販売
- 「G-button」を使用したワイシャツ、パジャマ、エプロンなどの製造販売 ほか

- 平成13年「北の生活産業デザインコンペティション（工業デザイン部門）」銅賞【北海道】
- 2004年度「グッドデザイン賞」
【(財)日本産業デザイン振興会】 ほか

『石井ちゃんゆく〜』
「みんなにやわらかくUDを
みんなで探検・発見する番組

《事業内容》北海道内におけるテレビジョン放送 (フジテレビ系列)

所在地：札幌市中央区北1条西14丁目1番地の5
TEL：011-214-5200
FAX：011-221-9336
設立：1971年(昭和46年)6月
資本金：5億円
代表者：代表取締役社長 新蔵 博雅
従業員数：166名
《お問い合わせ先》
担当者：UHB視聴者センター
TEL：011-214-5440
e-mail：<http://uhb.jp>「視聴者の声」



番組制作のきっかけ

2002年10月に札幌で開催された「DPI(障害者インターナショナル)世界会議」を応援するために、UHBでは、2001年1月から「“みんな”が当事者」というテーマでUDキャンペーンを実施。そのキャンペーンの一環として開局30年目の節目でもある2001年4月から「石井ちゃんがゆく!」の番組名で放送開始。翌年4月からは、「視聴者のみなさんと石井ちゃんが一緒にゆく!」というコンセプトに合わせて、番組名を「石井ちゃんとゆく!」に変更し現在に至る。

番組内容

石井雅子リポーターをナビゲーターに、時に小芝居を交えながら、楽しく面白く、ものづくり、建物づくり、まちづくり、心づくりなど、幅広い分野でUDを紹介。これまでに、放送は384回(2009年2月末現在)を数え、過去放送されたものはHP(http://uhb.jp/program/official/ishiichan/ishiichan_top.html)で動画を見ることができる。

- 毎週木曜日、21時54分から22時までの放送
- 2001年から続く長寿番組
- 2008年の年間平均視聴率は14.5%
- UHBのCSR(企業の社会的責任)活動の一環
- 番組の狙いは、若い世代をはじめとした幅広い層に自然な形でUDを理解してもらうこと

その他

「UD出前授業」

UDを身近に感じてもらうために、石井リポーターと山田ディレクターが学校、イベント会場などを訪問し、トークショーなどを開催。

『ユニバーサルデザイン(UD)』とは

「年齢や能力に関わりなく、全ての生活者に対して適合するデザイン」をいい、故ロナルド・メイス（アメリカノースカロライナ州立大学ユニバーサルデザインセンター）等により、それまでのバリアフリーの概念に代わって1980年代に入り提唱された。

【ロナルド・メイスのUD7原則】

① 公平な利用(equitable use)

誰にでも利用できるように作られており、かつ、容易に入手できること

② 利用における柔軟性(flexibility use)

使う人のさまざまな好みや能力に合うように作られていること

③ 単純で直感的な利用(simple and intuitive use)

使う人の経験や知識、言語能力、集中力に関係なく、使い方がわかりやすく作られていること

④ わかりやすい情報(perceptible information)

使用状況や、使う人の視覚、聴覚などの感覚能力に関係なく、必要な情報が効果的に伝わるように作られていること

⑤ 間違いに対する寛大さ(tolerance for error)

ついうっかりしたり、意図しない行動が、危険や思わぬ結果につながらないように作られていること

⑥ 身体的負担は少なく(low physical effort)

効率よく、気持ちよく、疲れないで使えるようにすること

⑦ 接近や利用に際する大きさと広さ

(size and space for approach and use)

どんな体格や、姿勢、移動能力の人にも、アクセスしやすく、操作がしやすいスペースや大きさにすること

〈その他の製品・サービス事例〉

- 停車駅などの情報を音声と共に文字で案内する列車内の液晶パネル
- 購入ボタンや取出口などが腰の高さにあり利用しやすい自動販売機



この事例集は、
メディア・ユニバーサルデザインの考え方で作られています。



インキはアメリカ大豆協会認定の石油系溶剤をまったく使用しない
VOC(揮発性有機化合物)ゼロの大豆系インキを使用しています。



紙には古紙100%再生紙の
OKマットコートグリーン100を使用しています。



経済産業省
北海道経済産業局
Hokkaido Bureau of Economy, Trade and Industry

経済産業省 北海道経済産業局
産業部 サービス産業室

〒060-0808 札幌市北区北8条西2丁目 札幌第1合同庁舎5階
TEL : 011-709-2311(内線2558・2559)
FAX : 011-709-2566

[E-mail] hokkaido-service@meti.go.jp

本事例集は北海道経済産業局ホームページにもPDF形式で掲載されています。
[URL] <http://www.hkd.meti.go.jp/>